

世界のジュエリー 進化するSynthetic diamondに

昨年末、日本全国でレストランのメニュー偽装(偽造食材)がニュースで取り沙汰されているとき、世界のジュエリー業界でもダイヤモンドジュエリーにSynthetic Diamondが混入しているという問題が発生し、話題となった。

その発端は、2013年11月初旬に、イスラエルに本部を置く世界ダイヤモンド取引所連盟(WFDB)が、世界のダイヤモンド業界に発した「故意または誤ってSynthetic Diamondであることを開示しなかったWFDBメンバーに対し、その行為を詐欺と見なし、厳しい処分をとる」といった警告を発したことであった。

2013年11月26日には、JJAとGIAの共催で、「米国GIAによる合成ダイヤモンド最新情報講座」というセミナーが開かれたが、Synthetic Diamondがどこで造られ、どのような特徴を持っているか、また鑑別方法などの情報に過ぎず、期待された“流通情報”については公開されなかった。

特にメレサイズに懸念も

現在、宝飾業界で懸念されているのは、鑑別に不出すことのないメレサイズのダイヤモンドである。通常メレサイズのダイヤモンドは、中石の周りなどに使われることが多く、鑑別はほとんど行われていない。小さくて量も多いメレの鑑別は、コストが掛かり、また石留されている場合は外す作業の手間なども掛かるからだ。

一部の関係者の中には、「メレサイズの鑑別の受け入れや交換の受け入れを開始しているところもあるが、それだけでは問題解決には至らない」と語っている。

希少性もなく、造れば造るほど安くなる Synthetic Diamond

ここで基本に戻って、なぜSynthetic Diamondが流通に乗ると脅威なのかを改めて考えてみたい。説明するまでもないが天然ダイヤモンドは、“永遠性・希少性・神秘性”など言葉では表現できない価値を持っているが、Synthetic Diamondにその価値はない。この違いが情報開示されずに天然ダイヤモンドとして販売されることは、消費者に対する裏切り行為とみなされ、業界は大きな脅威にさらされるであろう。

正しく情報開示されていれば、何の問題もなく安心してSynthetic Diamondであろうとなんでであろうと販売できるが、情報開示されずに天然ダイヤモンドとして同じような価格で販売した場合には、消費者はダイヤモンドに対する夢や信頼を失い、偽造食材を提供したレストランのように、返金に追い込まれるやもしれない。宝飾店の場合は返金額も食品とは比べ物にならないほど高額なことが予測でき、更には業界全体の信頼が失墜する事態にまで発展することも考えられる。



高温高圧(HPHT)プロセス合成ダイヤモンド

2013年11月26日、JJAとGIAの共催で行われた「米国GIAによる合成ダイヤモンド最新情報講座」



2013年春、中宝研にソーティング依頼で持ち込まれたCVDダイヤモンド、重量は1カラットアップ、クラリティーはVS1～VS2、カラーはLight Yellowish Gray

日本の鑑別機関でも多数発見されている

Synthetic Diamondについては、10年ほど前から製造され、天然ダイヤモンドとして販売されたら気が付かないかもしれないほど精密で進化しているとの話が伝わっていた。近い将来、天然ダイヤモンドとしてSynthetic Diamondが混入され、天然ダイヤモンドの流通に乗るだろうとの懸念もその時点で起こっていた。

その予測がまさに現実となった。確認されているのは、GIAに鑑別に出された数カラットのSynthetic Diamond。天然ということで鑑別が依頼され、Synthetic Diamondであることが判明している。また、国内のグレーディングレポート依頼で預かったものからCVD Synthetic Diamondが発見されたことで、日本市場にも入ってきていることが判明した。

AGLに所属する鑑別機関では、グレーディングもしくは鑑別の前にダイヤモンドのタイプ(I型、II型)を分類することが義務付けられている。

更に中宝研では、合成や高温高圧プロセスの可能性のあるタイプのダイヤモンドについて、義務づけられた分類の後、ダイヤモンドビューやフォトルミネッセンス分光分析を実施し、ダイヤモンドの起源についての検査を行っている。しかし、現在ダイヤモンド輸入業者の間では、鑑別をしていないメレサイズに混入している可能性は否定できないとしている。

一部では既にSynthetic Diamondが混入したジュエリーを知らないまま販売している可能性を認めないところまで発展しているのが現状で、業界として対処方法や対応策を早急に打ち出すことが必要である。日本の宝飾業界が国際的な宝飾業界の動きから遅れていると言われていることを考えれば、もっと前からSynthetic Diamondが混入された商品が入っていてもおかしくないのだから、より深刻な問題と考えるべきである。

知らないでは済まされない 勉強不足は裏切り行為

ダイヤモンド消費国である日本では、ただ消費する事(販売のみ)だけに重きを置いてきた経緯があり、ダイヤモンドの生産に対する知識やその流通、石そのものについても勉強不足といわれており、このSynthetic Diamondの情報も、一部を除いては海外の情報を待つしかないのが現状である。

誰か本当のことを 教えて下さい。



山口遼

●やまぐち りょう
●株式会社エム・エス・エス代表取締役
●株式会社エム・エス・エスの取締役を経て、ジェムイン
ターナショナル株式会社社長に就任。真珠の歴史を
研究し「ジュエリーの歴史」と多くの著がある

業の裏の裏を
知悉した会
社が、そろっ
と手を引き
始めた裏には
何があるの

か誰に聞いてもまともな答えはない。動けば人工ダイヤモンドの出現によって、産業の成り行きを見限った問題が顕在化する前に逃げ出したとも思える。

この所々ダイヤモンドがきな臭い。最近注目を集めている人工ダイヤモンドの件で、いろいろと不思議な行動が目立つのだが、だれ一人ちゃんとした情報を知らせてくれない。昨年の八月に開催されたJTFでは、ほとんど見るべきものは無かったのだが、唯一面白かったのがCVD法による人工ダイヤモンドを売っていた店だ。東南アジアで生成された、中国でカットしたと言われるダイヤモンドを見て、まあびっくりした。その後、日本でも有数の宝石商の所で、念のためにメレー石を検査したところ、約二割が人工であったという噂も聞いた。

このCVD方式による人工ダイヤモンドが噂になる前にも、いろいろと不思議な動きがあったようだ。第1はダイヤモンドの代名詞とも言うべきオックスハイマー家がダイヤモンドから完全に手を引いたことだ。次にカナダのアーバー社もハリウッド・ストーンを売却して、やはりダイヤモンドから手を引いたか、オーストラリアのリオアイト社もダイヤモンドにはネガティブになっているのか。こうしたダイヤモンド産

第一の不思議は、やたらとダイヤモンドの素性を言い立てる。どうやら「フォーエバーマーク」がその一例で、どこで採れたかを登録し、ダイヤモンドそのものに刻印すると、まあ、いかにも顧客を大事にしている、という姿勢はもつともいいが、これも素性が「人工だ」とバレては困る。だから事前に氏素性をはつきりとさせると言うことか、とも動ける。これも逆さまに考えれば、フォーエバーマークのダイヤモンドは素性が分かっていますが、そうでない人工ダイヤモンドについては知りません、ブラッドダイヤモンドかもしれない人工ダイヤモンドかもしれない、私たちが知りませんと言っている。まあ、何ともジョコチユーな話ではありませんが。

こうした状況は宝石の世界でもかつて一度起きたことだ。日本の養殖真珠が世界に登場した時の様子に酷似している。真珠の場合には、貝という自然物を媒介していただけに、天然真珠とも最終的には折り合いをつけ、棲み分けに成功した訳だが、人工ダイヤモンドの場合には完全な人工物であるだけに、はたして真珠のような棲み分けが出来るのか。アメリカなどでは、すでに人工ダイヤモンドのジュエリーだけを扱う小売店が出現している。しかも、地球に大穴を開けている天然ダイヤモンドの採掘現場と、静かな人工ダイヤモンドの生成過程を比較対照して、どちらがエコか、地球に優しいか——まあ、それにしてもこの手のもつともらしい言葉には寒気がしますが——と客に問いかける始末だ。

そこで人工ダイヤモンドの閉鎖的な社会におられる方に聞きたいのです。大手の会社は人工ダイヤモンドの将来を見限ったのか、近未来に簡単に人工ダイヤモンドを識別できる機械は出来るのか、もうすでにメレーなどに、ひいてはブラッドを使う0.3〜0.5カラットのダイヤモンドに、人工ダイヤモンドは混入していないのか、マスコミへの説明、ひいては顧客への説明を業界全体として、どう纏めるのか、誰か日本では対応するのか、どうか教えていただけませんか。なんせ、人工ダイヤモンドはジュエリーの根幹をなす素材、これが何が何だか分らないでは、業界は成り立たないのです。

Power of 100%

少しの迷いもない純粋なチカラ



EmbrasseR purest

純プラチナと純ゴールドから生まれたマリッジリングコレクション
(アンブラッセビュアレスト)



お問い合わせ 03-3839-9880

www.kuwayama.co.jp

第25回 国際宝飾展 IJT2014
Booth No. A2-17



NINA RICCI

エスジェイジュエリー株式会社 03-3847-9903 http://www.sjj.co.jp/ninaricci/